

新しい 人材活用 プロシエリング

外部プロ人材 活用成功事例



(株)サーキュレーション
代表取締役 福田 悠

No.51 工場ラインの自動化で生産性向上と人員最適化に成功

プロシエリングとは、高い職能を持って複数企業で同時に活躍するプロフェッショナルを、経営課題に合わせて「雇用」ではなく「活用」するという、新しい人材活用の手法です。2014年の設立以来、サーキュレーションには24,000名以上のプロが登録し、17,000件以上のプロジェクトで実績を上げてきました（2024年4月末時点）。プロジェクトは経営要素の強い案件が多く、新規事業の企画推進や、人事・広報等のミドルオフィス支援、さらにはIPO関連から中期経営計画の策定、CFOのシェアなども実行しています。

伝統に胡坐をかかず リソースの最適化を模索

今回は、桂新堂株式会社様（以下、同社）が、プロ人材と工場の全面自動化プロジェクトに取り組んだ結果、工場の機械化が実現し、さらにそれによって工場運営に必要な人数・人員配置の見直しに成功した際のプロシエリング活用事例をご紹介します。

同社は1866年（慶応2年）に創業された従業員数496名（2023年3月時点）の企業で、「ほっぺたが

おちるような美味しいお菓子で笑顔をつくります」を理念に掲げ、えび菓子の製造・販売を中心に事業を展開しています。伝統に胡坐をかかなく、「おいしい」を追求し続け、着実に成長を遂げている企業です。

課題 生産ライン省人化の ノウハウが不足

同社は、コロナ前後で売上が3割減少していました。加えて生産現場では従業員の高齢化に伴い、以前の売上水準に戻ったとしても対応力が危ぶまれ、組織の再構築が急務でした。もともと同社は2022年8月までに強固な生産体制の構築を目標として、リソースの最適化を図るプロジェクトを自社内で立ち上げており、8割程度までは進んでいましたが、実際に生産ラインを自動化していくノウハウが社内に不足していました。そのような状況で、必要な時に専門性の高い人材を雇用せず活用できる「プロシエリング」に出会いました。

解決策 全面自動化に向けて 工程を見直し機械導入

サーキュレーションからはプロ人材のご紹介とともに「生産体制の構築／自動化」という解決策を

ご提案しました。今回推薦したプロ人材のA氏は、年商5,000万円／社員数5名規模の自動車製造部品会社に入社し5年後には専務に就任。その後、自動車業界に留まらず、自動化がなかなか進んでいない食品業界に参入し、食品の製造装置の開発を主導したご経験があります。その企業では、2023年度は年商25億円に到達し、売上の約4割を食品関連から創出できるまでに成長を牽引しました。VP (Vice President) として経営・事業企画・マーケティング・営業を横断して立ち上げ15億円の資金調達も指揮されるなどダイナミックな事業展開ノウハウを蓄積されてきました。現在は上場企業やプレIPOのスタートアップまで、ブランディング・経営／事業戦略、事業開発・ファイナンス・マーケティング・営業領域等、複合的にご支援可能なプロ人材です。

●現状把握

プロ人材A氏は、まず現状把握を行いました。現場へのヒアリングを進め、同社が目指していた強固な生産体制とのギャップや問題点を洗い出しました。

●要件設計

次に、洗い出した生産ラインの

■福田 悠

中央大学理工学部を卒業後、インテリジェンス（現パーソルキャリア）へ入社。製造業を中心とした約600社の人材採用を支援。大手法人顧客専門部門を経て、同社初となる社内ベンチャーの立ち上げに携わる。2014年、サーキュレーションの創業に参画。中小企業や製造業大手顧客を担当しながら、地方金融機関とのアライアンス、地方7拠点の設立を主導。2023年4月より代表取締役社長に就任。

■株式会社サーキュレーション

本社：東京都渋谷区神宮前 3-21-5 サーキュレーションビル ForPro
TEL：03-6256-0467 URL：https://circu.co.jp/



左：桂新堂株式会社 取締役 生産管理部長 近藤 貴之氏
中央：サーキュレーション コンサルタント 平澤 幸治
右：サーキュレーション カスタマーサクセス 黒石 真菜実

問題点が解決できるよう、具体的な機械の寸法や細かい機械種類の選定に着手しました。さらに、より効率的に運用できるように作業工程の見直しを提案しました。

●ベンダー選定

要件設計に合うベンダーを選定し、そのベンダーに対して要件・仕様調整、課題・問題の対応、内容策定、納期管理などの調整を行いました。また、より早く効率的に稼働できるよう導入する機械の優先順位を決めていきました。

●導入サポート

実際に、機械が導入されると仕組みを調整し、デジタル化推進を補助。スムーズな運用改善に向けた詳細なアドバイスを行いました。

成果

省力化と生産体制の構築を実現

同社はプロシエアリングの活用により、パッケージに関するすべての工程で自動化に着手し、それによって工場運営に必要な人数・人員配置の見直しが実現しました。具体的には以下の2つの成果を実感されています。同時に、事業成長を考えるうえでの今後の課題も明確になりました。こちらについても社内のノウハウ・リソースによる推進が難しい場合は、プロ人材の活用を検討したいと考えています。

①自動化による省力化を実現

合計4つのラインの自動化によって、従来36人で担当していた作業が17人で運用できるところ

成功事例

- No.46 IPOに向けた事業体制構築と組織強化に成功
- No.47 コロナ禍の低迷を脱し、事業収益性を大幅に改善
- No.48 応募ゼロから半年間で5名の人材採用に成功
- No.49 BtoC新規事業、大型カフェの開業に成功
- No.50 WEBマーケティングを強化し顧客数が前年の8倍
- No.51 工場ラインの自動化で生産性向上と人員最適化に成功

まで省力化を実現

②計画通りの生産体制を構築

24時間体制での工場稼働が可能になり、計画通りに生産できる体制を構築

プロシエアリング×生産管理プロジェクトでの支援ポイント

自社の成長基盤を創るために、自社内で推進できる人材の確保に向けて社内異動や業務の兼務、採用活動の強化という方法がある一方で、各分野での支援実績が豊富なプロ人材を活用し、伴走してもらうことも非常に効果的だと感じられる事例です。社内メンバーの人脈以外でプロ人材を探す手段では、業務委託での支援を通じてアドバイザーになってもらう方法があります。雇用する場合と比較してミスマッチなどのリスクを低減ができる点も有効な手段となりえます。

生産管理において自ら装置の開発を主導した経験も持ち、導入機械の選定から実際にベンダーのコントロールまでできる人材というのは、実際に採用するとなると非常に希少価値が高く、給与も高い傾向にあります。そのような人材を採用したいという要望があった場合は、プロシエアリングの活用を検討・提案してみてもいいでしょうか。